

自己評価表 (令和4年度)

■自己評価の目的
自己評価は、園の取組みを振り返り、園の良さや特色、運営の状況等を確認し、教育活動がより一層充実するよう、改善の方向を明確にするために実施します。

自己評価の取組みを通じて、園としての今後、重点的に取り組むべきことは何かをみんまで考えましょう。尚、自己評価は、個人を評価するものではありません。

園全体としての現状や課題を把握するためのものです。各評価項目について、自身の考えや想いを率直に記入してください。

【評価基準】
A：十分達成されている (よくできている)
B：達成されている (できている)
C：取組まれているが成果が十分でない (あまりできていない)
D：取組みが不十分である (全くできていない)

評価分類	評価項目	具体的確認項目	評価 (A,B,C,D)	具体的に取組めたこと	今後の課題(もっとこうしたい方がよいと思うこと)
I. 教職員体制の充実	教職員同士の協力・連携	教育方針・目標は、園の特色を生かしたものにしている。	A	四季を通じ、自然に触れながら、植物や生き物の世話をし、命の尊さや自然の恵みの大切さを保育に取り入れ、その成果は保護者に受け入れられている。	
		園の教育方針や目標を理解し、共感している。	A	・新入園児の説明会や入園・進級式等において、保護者の方々に、教育方針や目標を伝え、家庭の協力の大切さを理解する。	
		園の方針や目標について、保護者の理解を促すよう取り組んでいる。	A	・「親学」を新入保護者に向けて実施。保育者一ターより、育児の自己反省と評価を奨励し合い、話し合った。	
		園たよりの発行やPTA委員会や役員会に積極的に参加し、交流を深めている。	A	・毎月1回の園報で、行事・約束・園児の近況などを知らせ、PTA参画の行事や味付け作りを実施し、卒園児のPTAとの交流にも取り組んでいる。	
		園内の環境整備に心掛け、又、食育として季節の野菜作りに取り組んでいる。	A	・季節毎の壁面製作を工夫したり、花壇、野菜、小動物等の世話をしたりして、季節の自然を感じ、また、食育として野菜畑で収穫したものを保育に取り入れられている。	
		個々の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができている。	A	・課題の多い園児を共通の課題として話し合い、一人ひとりに寄り添った見守りながら、園児の成長を促すよう配慮し、全体をよく見る力を養っている。	
		幼児を保育者の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようになっている。	A	・子供たちの意見に耳を傾け、保育者の考えを押し付けずに、幼児が自発的に考え言葉を伝えられ、行動出来るようになっている。	
		幼児の理解のために保護者と話し合う機会をもっている。	A	・言葉の豊かさを高め、保護者と話し合う機会を設定し、要望や相談を受け、必要であれば行政機関と交流できる体制を整えた。	
		園籍が違っても、いじめにならないように心掛け、平等に関わっている。	A	・日本語の通じない子供には、ゆっくりに分かるように進め、家庭でも、なるべく日本語での会話を促し、自分の思いを伝えられるように、心がけている。	
		教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	B	・保育者も手本となる存在であるということを常に認識し、正しい言葉遣いに努め、周囲の子供たちも正しい日本語が話せるようになっている。	
II. 地域との連携	指導とかわり	年中・年長児対象で、英語に対する興味が得られるように楽しく保育に取り入れる。	A	・週一回、定期的に「英語」を取り入れ、英語遊びを通して簡単な言葉から身につけ、楽しんで英語に親しみ、簡単な英語が出来るようになり楽しんでいる。	
		幼児が自ら考えたり工夫したりできるように楽しく保育に取り入れる。	A	・年中児から始め、週一回定期的に保育に取り入れ、文字遊びとして楽しく書き方を学び、数字や数も保育に取り入れている。	
		幼児が遊びを深めるため、幼児が自ら考えたり工夫したりできるよう見守り方をしている。	A	・遊びについて研究や情報交換を行い、保育者の意見を押し付けるのではなく、子供たちのアイディアを広げていけるよう積極的に援助をしている。	
		長児は鼓笛隊やカラオケなどで、一つの目標に向かって友達が協力して作り上げている。	A	・鼓笛隊での役割も大切であることや、カラオケも楽しむよう言葉かけをする。かぞえも進めが考え、協力することの大切さを学ぶよう言葉かけをする。	
		全園児にはハニーモカやラムを取り入れている。	A	・保育に取り入れ、全員で分業したり、楽器遊びへの幅を広げ、楽しく演奏できるように心掛け、音楽の分野も広げている。	
		コロナ禍で感染防止の為、年長児の一泊保育を変更し、お楽しみ保育とし保育時間を短縮して実施。自立心と協調性が得られることを目的で内容は同じものにした。	B	・年長児の自立心を育て、グループ行動で協力することの大切さを学び、自分で考えて行動し、自信が持てるようになっている。	・どの子供も自分の思いを言葉で伝えられるように促し、それができそうなら褒めを言葉で、自信が持てるよう心掛ける。
		コロナ禍の為、工夫して製作したり描いたりしたものを持ち帰り、飾りつけたり、使用し、感じる。	A	・展示物が目や鼻、口、果物に見えるように展示方法を工夫し、成長していく様子が見えたり、楽しんで見られるようになっている。	・ごっこ遊びを充実させるように、もっと工夫することに心掛ける。
		異年齢児と縦割り、お店ごっこを催し、擬紙幣を使い各自自前作り、自分で決めた品物を作って制作し、想像力を高め、達成感を味わう。	B	・初めてのお店ごっこだったので、擬紙幣を使って物を買うことを知り、各自自前作り、自分で決めた品物を作って制作し、想像力を高め、達成感を味わう。	
		定期的な職員会議を通じて、保育についての話し合い、評価し合い、又、反省を促して保育の向上につなげる。	A	・各週の職員会議で行事計画を協議し、課題の多い子供の対応について一貫性を保ち、協力しあって保育している。	・保育のマンネリ化がないように、新しい事に挑戦する意欲を持てるようにしたい。
		月・季・週・日誌により、保育の進行具合を一律にし、クラス差やおくれの無い様に自分の保育については自己課題として計画と反省を行い、自己研鑽に励む。	B	・平日の保育の糧にして、向上を目指す。	・もっと研修を取り入れ、保育の向上に向け、実践していきたい。
III. 研修と研究	研修・研究	研修を終了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けている。	B	・研修の内容や成果を他の職員に発表する機会を設け、成果を共有し保育に取り入れて、	・ヒントを与えたりしても、画一的にならないよう心掛ける。
		教材を同じくしたため、年齢差を感じられるようにそれぞれ工夫した保育をしている。	B	・同じ教材を発達年齢に合わせた工夫し、想像力を伸ばせるよう取り組む。	・発達・成長の度合いが分かるように心掛ける。
		定期的に園児たちに対する災害時安全教育を実施している。	A	・災害などの緊急時の避難訓練を月に一回実施している。避難方法や避難経路を指定し、集合場所などに迅速に集合する。警報や消火警報に要請し訓練を実施している。	・地域の人と共に避難訓練の体験ができれば良い。どの方も、
		緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	B	・緊急時の保護者等への対応について、時には医師の判断を仰ぎ、迅速に行っている。	・来年も継続するようなら、続行していく。
		新型コロナウイルス感染症対策として、園児も保護者もマスクの着用を徹底している。	A	・コロナ禍の中、園児も保護者も職員も感染防止策を徹底し、遵守することが無かった。	・定期的に子育て支援教室を開催している。親子で年36回。
		地域の子育てのお手伝いとしての機能を発揮している。	B	・コロナ禍の為、敬老の集いは出来なかったが、全園児で絵はがきを書き送った。	・地域の方々や在園児の交流する機会を充実させていきたい。
		コロナ禍の為、敬老の集いは出来なかったが、全園児で絵はがきを書き送った。	A	・コロナ禍の為、敬老の集いは出来なかったが、全園児で絵はがきを出して書かれた。	
		地域への開放と支援	A		

1. 教育内容

1. 本園の教育目標

- くつろいだ雰囲気の中で情緒の安定を図る。
- 一人ひとりの良さを伸ばし、自己の能力を十分発揮させる。
- 自立と協調性を重視し、優しい気持ちでいたわる心を養う。
- 野菜の育成を観察し、収穫を喜び、自然とのかかわりを通し生物をいつくしむ。
- 体力測定を通して運動能力を高める。
- 工夫して創作することにより、豊かな創造力を育て、生演奏を聴いて情操豊かになる。
- 一年間学習した歌、リズム、劇遊びを通じて表現する喜びを知る。
- クッキング等、異年齢児の交流を通して、社会性、人間性を養う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・コロナ禍での感染防止のため、園児・職員の安全面を重視し、保育に取り組む。
- ・コロナ禍での感染防止に配慮しながら、園児には出来るだけ行事の経験が出来るようにする。
- ・コロナ禍での感染防止の徹底に努めるが、園児が異常に神経質にならない様に考慮し、伸び伸びと園生活が出来る様に配慮を怠らない。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育内容	新教育要領の理解を深め、実態に合わせて体験を増やし、振り返りながら指導計画を作成した。
教職員の資質と働き方	月案、週案、日案を充実させ、様々な知識や技術を習得し、研修や保育を公開したりして、保育の向上をめざし、新しい事にもチャレンジして、自己研鑽に励んでいる。新任教育も含む。 気持ちよく仕事に励めるように、休憩時間の徹底と残業時間0を保持し時間の使い方を有効にした。
安全管理	定期的に遊具・園庭・保育室・その他の設備の安全点検を実施し改善している。緊急時には一斉メール配信を実施。緊急の場合を想定して避難訓練を実施。救急救命の講習を受講。
子育て支援事業	未就園児の親子に月1回、施設を開放し、親子で遊んだり、子育て相談を実施している。 親子20組を年36回1時間保育を実施、制作や親子遊びをし、初めての集団生活を体験する。
食育	野菜を育てることにより、季節感や野菜の成長過程に興味や関心を持ち、嫌いな野菜でも食することが出来、収穫した野菜を使った食事を楽しんだ。 園での味噌作りの参加者が増え、子供たちが良く食べるようになったと好評である。
保護者との連携	登園、降園時などに理解を共有するため、子どもの様子など伝え、子育ての相談を受けている。
	コロナ禍で、園の行事の保護者の参加人数を制限し、時期を前倒しに計画し、全て執り行えた。
	毎日の検温・手洗い・マスク・部屋の消毒に加え、体調を整えて登園する事への協力で、園からの感染者は無く、もちろんクラスターも無かった。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己点検・自己評価をすることによって、園全体で取り組む課題や個々の課題について、熱心に意見交換が行われ、取り組むべき方向性も明確になり、一層の向上が期待される。

5. 今後取り組むべき課題

R4年度も個々の個性を重んじ、今以上、子どもの自己能力が一層発揮できるように、資質向上を目指して研修を充実させ取り組んでいく。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき点はなく、妥当であると認められる。コロナ禍の園の対応を称賛された。

7. 財務状況

令和3年度収支では、園児数は横ばいにもかかわらず、現状維持できています。
公認会計士による監査では、資金収支計算書、事業活動収支計算書が適正に表示されていると認められた。